

天児慧著「日本再生の戦略」講談社現代新書 2009年4月20日刊を読む

GDPではなくてGCPを目指す

1. 私はこれまでも何度か語ったが、そうした中で GDP 神話を見直す時に来ているのではないかと思い始めた。もちろん経済成長は必要で、成長のための様々な取り組みはなされねばならない。しかし人間社会の基本的な立脚点は忘れてはならない。人は生まれながらにして、衣食住に困らないで生きていく権利を有している。さらには病気、けが、高齢化、事故、失業などによって弱い立場に陥った時、誰も保護され支援される仕組みがあることを望む。いまは経済的に強者と言える人でも将来もまた強者であり続けるとは限らない。そうした社会の仕組みを作り維持するために人々は税金を払い、あるいはその他の公民としての義務を負う。逆に政府や地方自治体はまずこうした人々の最低限の生活と安心を保障する義務を負っているのである。政府がこれらのことをないがしろにし、ひたすら経済利益の向上を優先し、あらゆるものを民営化し、自由競争の道に追い立てるとしたら、そこに住む人々にとって政府は意味をなさなくなる。
2. 基本的な生活と安心が保障されると、人々はより快適な生活を求めて生きようとするだろう。教育、文化芸術、スポーツ、娯楽、憩いなどの「場」が欲しくなる。充実した教育が受けられ、音楽・美術鑑賞ができ、各種のスポーツや趣味を楽しみ、時に自然の中で温泉などを楽しむ。これらが実現できるコミュニティー活動などが社会の中で取り組まれるようになればいい。あるいはこの十数年来、放置、遺棄されてきた「豊かな自然」を再生させ、豊かな地域社会再生の基盤にすることも大切だろう。
3. 私はこうした状態、すなわち 最低限の生活保障と 安心の保障、 より快適な生活の実現を合わせて GCP (Gross Comfortable Product = 快適性生産総量) と名付けたい。これからの時代は日本のみならず世界的にももはや GDP を争う時代ではなく、本格的に GCP が問われる時代になっていくのではないだろうか。
4. 日本が率先して GCP を高めていくことに邁進し、将来そのモデル的な国になることができたなら、日本は第二次世界大戦後の「驚異の経済復興」とは異なった意味で、「世界に輝ける日本」を再生することができるのではないだろうか。もちろん GCP を測る基本的な指標の選択と数値の出し方は今後の検討課題にしなければならない。しかし当然にも 一人当たりの消費食糧、雇用率、持ち家・借家率、^{まいしん} 一人当たり医療費、失業・傷害・養老など社会保障、^{まいしん} 一人当たり対する学校・教員数、文化・スポーツ・娯楽施設数の割合、地域コミュニティー活動の種類と回数などを何らかの基準で数値化していくことになるだろう。

退職者、女性、若者に希望を

- 5．もちろんこうした試みはすべて政府とか自治体に求める話ではなく、住民一人一人の工夫と努力に負う部分も大きい。いや、むしろこうした快適な生活を実現する主役は住民自身なのである。
- 6．例えばまだ十分に働けるが 60 歳定年で退職した人々が主力になって、金をかけない楽しい地域社会づくりを目指したらどうだろうか。年金が生活の糧になるのだから、それに少し収入を増やす程度であっても、生きがいさえ感じるなら、こうした人々は貴重な戦力になるし、自分自身も楽しいはずだ。
- 7．あるいは育児に時間を取られる必要がなくなった主婦たちも、積極的にこうした街づくり・地域づくりに参加できるだろう。魅力ある街づくり、地域社会づくりには、女性の目線は欠かせない。例えば、深刻化している少子化対策は子供を生み育てる女性自身が中心となって取り組まれるべきだろう。いかにすれば、子供をより多く出産しながらも育児の負担を軽減できる社会的な仕組みが可能か。ここでも早期退職の 50 歳代を含む年金生活者の再活用は十分に検討の価値がある。
- 8．最近では、地域の活性化、クリーン社会の創造などを目指した NPO が、企業などと連携して活発に活動し始めている。あるいは各地方の大学がこれまで以上に積極的に、こういった地域活性化のためのリーダー育成のプログラムや専門コースを創り、教育面からの支援をすることも勧めたい。そしてこうした中に、やがて都会にいる退職者、行き場を失いつつある若者たちなどを巻き込み、彼らの第二の人生を自然との共生が可能な地方へと向かわせることができるなら、都会から田舎へという逆流をつくりだすことになっていくのではないだろうか。
- 9．地域を充実した楽しい空間にすることができ、雇用の創出にも成果が上がるようになれば、若者は自然と地元に残るようになる。そうすれば地方はさらに活気づいてくる。まさに好循環の流れである。私はこうした考えが決して「絵にかいた餅」だとは思わない。しかし容易な試みではないことも確かである。まず、スタートは少数でもよいから、幾つかの地方で強い意志と戦略性をもったリーダー、更には献身的に汗をかいて仕事ができる人材が出てくることを願う。
- 10．更にこうしたコアな人々の周囲に活動的な人々のネットワークが形成されねばならない。もちろん相当の資金も必要である。そのためには政府自身が将来の日本の国としての形を構想し、戦略的な資金配分を決断しなければならない。かつては道路、鉄道、施設などハードな部分への建設に莫大な資金を投入していたことを考えれば、これからの投資はむしろソフトな部分への投資に転換すればいいことなのである。
- 11．しかしやはり肝心なことは、繰り返しになるが快適な社会を作ろうとする主体の人々が工夫を凝らすことである。資金がなくても、人材が直ちに育たなくても、工夫し現にある条件(人・資源など)を応用・活用し、現行の制度や発想を変え現状の力を最大化することに努力すべ

きである。そうした動きが少しずつでも形になっていけば、他の人も政府や自治体も必ず動き始める。時には既存の制度やルールを現実に合わせて逆に変えていく試みも必要だろう。そこにこそ、人間社会を再活性化させる基本哲学と手法が問われるのである。

- 12．再度強調しておきたい。日本再生の重要なポイントは、いかに成長し競争に勝つか、いかに強い日本を再生させるかという観点からではなく、外国人を含む日本に住む多くの人々が、それぞれの生き方、それぞれの価値などを充実させながら、その地域に生きていることが幸せであると感じられる魅力ある社会をいかに実現するかである。そのためには「人間主体」を軸にして弱くなった足腰(経済・社会基盤)をしっかり鍛えなおし、単純だが子供を増やし、元気で、感性豊かな、タフで優しい人間に育てる系統的な教育戦略を構築し、生活環境を一層充実させるための経済・社会・人間関係などあらゆる領域の改造に、早急に力を入れるべきなのである。そうした再生の努力こそ、日本人に自信を回復させ、国際評価を高め、結果として「ソフトではあるが強い日本」をよみがえらせることにつながるのである。

P.236 ~ 242

[コメント]

そうはいっても、GCPの前提はGDPであるというのが私の率直な感想である。しかし、GCPの重視はQuality of Life(生活の質の向上)や内需拡大に欠かせない。小さい政府づくりにも有用と考える。

- 2009年5月25日林明夫記 -